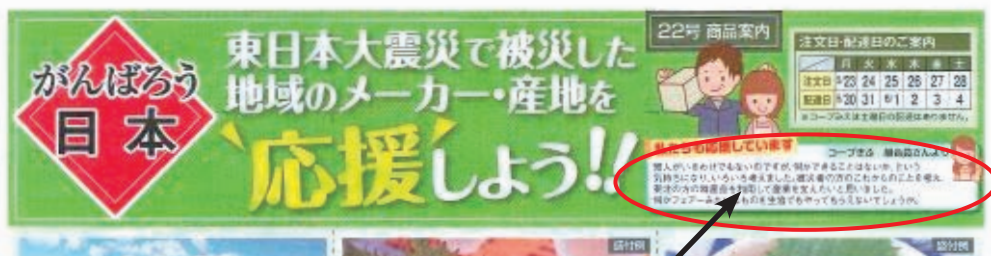


メーカー産地を応援する「がんばろう日本」の企画が22号から始まりました。



ココに声載っています

「テレビや新聞の報道以上のことは分かりませんが、知人がいるわけでもないのですが、何かできることはないか、という気持ちになり、いろいろ考えました。支援物資はかなり届いているようなので、被災者の方のこれからのことを考え、東北の方の特産品を利用して産業を支えたいと思いました。何かフェアミみたいなものを生協でもやってもらえないでしょうか。」

各務原支所の組合員さんの声から実現

組合員さんの声で、商品案内は改善されています。ぜひ皆さんのお声をお寄せください。

コープベル ☎0120-706-887



商品安全検査センター

網戸用防虫スプレーについて調べてみました

夏は窓を開けておくと、様々な虫が家中まで侵入して来ることがあります。そんな時網戸が有効ですが、最近では網戸に直接噴射して、虫を寄せ付けないスプレー剤も販売されていて、効果が2か月も続くとうたわれたものもあります。そんな効果があるのなら、噴射した網戸に幼児や子供が間違っ触ったら、手に殺虫成分が付き知らず知らず口から取り込んでしまうことあるのでは？ということで検査で調べてみました。

●網戸に噴射した殺虫成分はどの程度手に付くか

晴れた日に、検査センターの網戸に市販の網戸用スプレー式殺虫剤を、室内より外側に向けて説明書（20cm離し、80×100cmの網戸に50秒程度）通りに噴射しました。噴射直後と24時間後に直接手で網戸に触れてみて、どの程度殺虫成分が手に付いたかを分析機器にて測定してみました。結果は表のとおりです。噴射直後と24時間後とは、付着量は50倍以上違う結果となりました。24時間後には乾いていましたが、それに比較すると散布直後は完全に乾いてはいなかったものと考えられます。ただし、直後の場合であっても手への付着量は、ADIと比べても1%に満たないもので、手を舐めてすべて体内に入ったとしても健康への問題はないこともわかりました。

	手への付着量	ADI (体重20Kg換算)	ADI対比(%)
噴射直後	0.89μg	400μg	0.23
24時間後	0.017μg	400μg	0.0043

※今回の実験結果は、使用環境や実験方法によって大きく異なる可能性があり、あくまでも参考値としてお考え下さい。

【東海コープ商品安全検査センターとは…】

東海3県の3生協で「東海コープ」を作り、商品を共同仕入しています。東海コープは、メーカーさんと農家さんと、書類で約束を交わします。その約束が守られているか点検するのが、商品安全検査センターの役割です。



「ADI（一日摂取許容量）」とは

人間がある物質を毎日一生に渡って摂取したとしても健康に悪影響が出ない量の事。今回の殺虫成分のADI対比は、5～6歳の子供の体重20kgで計算してあります。



噴霧しているところ

●家庭で使用する殺虫剤について

家庭用殺虫剤の成分には、ピレスロイド系と言われる殺虫成分が使われることが多いようです。このピレスロイド系殺虫成分は、人には毒性が低く虫に対して特に毒性を示すもので農業用にも使用される成分です。家庭用殺虫剤は様々な安全性試験を通して、ヒトへの安全性が十分に確認された上で製品化されています。ただし、毒性が低いといっても薬剤であり、使用方法を間違ったり、必要以上に量を使用したりすると健康に悪い影響を与えかねません。家庭用の殺虫剤を使用する際にも、消費者が説明書をよく読み、十分注意して使うことが重要だと言えます。

「ピレスロイド」とは

除虫菊の花に含まれる殺虫成分であるピレトリン類と、これと化学構造のよく似たピレトリン類似の合成化合物を総称してピレスロイドと呼ばれています。日本では、蚊取り線香の成分として古くから使われています。